

本紙は昨年6月末～7月にかけ、清水合金製作所の営業担当者に各回1人登場頂き、イチオシ製品と営業活動でのエピソードを紹介する全4回の連載シリーズを掲載した。営業マンの視点でオリジナル製

品の長所や、客先で喜ばれたポイントなどを紹介する本企画が好評だったことを受け、今号から第2弾として新たに4回の連載を企画した。さらに、長岡裕・東京都市大学教授に各製品の所見を伺った。

清水合金製作所

連載シリーズ第2弾

営業マン 数珠つなぎ①

九州営業所
課長代理 榊原 雅文 氏



イチオシ
製品

狭隘な既設地下室に設置 製品知識深め良い提案を

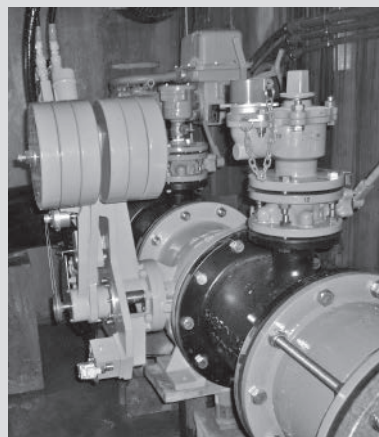
トップバッターは榊原雅文・九州営業所課長代理。2002年に入社して以来、九州エリア内の営業を担当し今年で19年目を迎える。現在は沖縄、鹿児島、宮崎3県内の水道事業体や農業事業体、地方防衛局、設計事務所や管材商社などに対し、バルブ回りの技術的課題の聞き取りと提案に日々取り組んでいる。

長年の営業活動の中で特に強く印象に残っているのは、小規模水道事業体が保有する唯一の配水池にオリジナル製品の緊急遮断弁が採用されたこと。「狭隘な現場に設置できたことで、大地震による被災に備えることができたとお客様から喜ばれた時はやり甲斐を強く感じました」と話す。

緊急遮断弁の製品ラインナップは「遮断および復帰動作方式、復帰操作を行う場所の違いでウエイト式油圧分離形、ウエイト式機械直動形、スプリングリターン式油圧分離形、ロータリーアクチュエータ式油圧分離形の4種類を取り扱い、現場状況に最適な製品を提案します」と紹介。

同社独自のウエイト式油圧分離形については「ウエイトの自重で閉動作を行う一般的な遮断動作方式ですが、弁操作ハンドルが地上の制御盤本体に設けられている点が大きな特徴です。弁室に立ち入ることなく、地上部のハンドルから油圧ポンプおよび油圧ホース、本体の油圧シリンダを経由し、安定した復帰操作が可能です。さらに、油圧シリンダは遮断動作時に緩衝用ダンパーとしても機能するため、減速機は不要であり、本体サイズは比較的小さいです」と説明する。

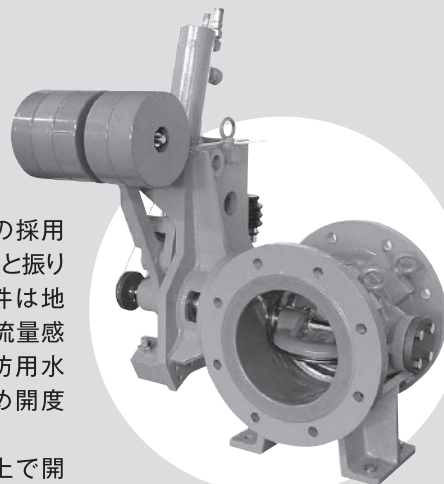
■ 設置状況



地上で復帰操作を行うため安全確保が容易に

既設配水池(有効容量4000立方メートル、PC造)の地下にある狭隘な流量計室への設置を検討していた事業体は当初、このコンパクトさに強い関心を示したという。「設置スペースの制約をクリアできる油圧分離形を前向きにご検討頂きました。また、大地震の発生に伴う電源の喪失も念頭にウエイト式を選択され、ウエイト

スプリング型緊急遮断弁



式油圧分離形の採用が決まりました」と振り返る。作動条件は地震感知AND過流量感知方式で、消防用水を確保するため開度は10%とする。

整備後は地上で開閉操作を行える利便性が高く評価されている。「被災時の初動では、技術職員2人が現場で発生する数多くの事象に対応されることになります。地下の弁室に立ち入る際は酸欠や水没対策といった安全性の確保、蓋が開かないトラブルなどにも的確に対応する必要があります。平時も訓練を行う必要があるのですが、それらを心配する必要なく省力化できると喜びの声を頂戴しています」。

客先の要望を細やかに反映した仕様に作り上げる面白さを感じている。「制御盤に使用する電子部品は事業体から指定頂くことも多く、当社基準の高い信頼性を確保することを前提として積極的にオーダーメイドにしています。お客様が設備を運用される将来のことも考え、満足し納得頂ける提案ができるように製品知識を日々アップデートし、現場経験を積むよう今後も努めたい」と張り切って業務に当たっている。



水道展の会場で熱心に製品説明

長岡教授のコメント



地震発生後に配水池の飲料水を確保することの重要性は言うまでもないが、地震感知方式に管路破損への対応を考慮した流量感知方式と組み合わせた信頼性の高い作動の保証、水没や停電などの事態で弁室へのアクセスが遮断された事態でも、制御盤から弁の復帰操作を可能とする緊急時への対応など、きめ細かい対応がなされている製品である。特に、弁室への人の立ち入りが困難である事態を考慮していることから、現場の声を丹念にヒアリングした結果をフィードバックして製品化されたことが窺え、事業体のニーズに応えた商品開発がなされたことを高く評価したい。